

陳 情 文 書 表

(都市計画局)

| | | | |
|-----------|---|-----------|-------------------|
| 受 理 番 号 | 2 7 0 6 | 受 理 年 月 日 | 令 和 4 年 2 月 2 1 日 |
| 件 名 | 北山文化・交流拠点地区の都市計画マスタープランからの削除等 | | |
| 要 旨 | <p>12月の市会まちづくり委員会における審議において、担当部長から、北山エリア整備基本計画については京都府において広く府民、市民の皆様様の御意見を反映したうえで、(中略)令和2年12月に策定された計画であると認識している。本市においては、これを受けて京都市マスタープランに掲げる都市計画の方針とも整合していることを確認のうえ、北山文化・交流拠点地区については、本年4月に地域まちづくり構想に位置付けたところであるとの答弁があった。</p> <p>しかし、マスタープランのまちづくり構想に位置付けた根拠となる京都市の認識は、府の整備計画が府民・市民の意見を反映したうえで策定されたことを前提にしたものだが、実際は市民の意見を反映していないどころか、その時点で住民への説明さえされていない。地域住民からの要望で11月によりよく開催された説明会では、大半が反対や疑問を呈する発言に終始した。理解を得ているというまちづくり構想策定の前提が崩れた以上、一旦まちづくり構想から削除し議論をし直すのが筋だと考える。</p> <p>また、担当部長は、都市マスタープランの方に交流機能を高める土地利用の誘導、北山の駅の周辺の活性化のこともあり、特色ある通りの形成、北山通の沿道の魅力、充実。そういったことで都市計画のマスタープランにもこのエリアを掲げているところで、都市計画の方向性と府の計画は合致していると確認しているところであるとも答弁されている。方向性が合致するとしている交流機能を高める土地利用の誘導、北山通沿いの充実という京都市の認識は、植物園の縮小、アリーナ建設などの開発を誘導するものになる。また、本来の植物園や大学の機能、守るべき環境や景観とは相いれないものである。その点からもまちづくり構想から削除されるべきと考える。</p> <p>ついては、以下の点を願う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 マスタープランのまちづくり構想の北山文化・交流拠点地区については、根拠とする京都府の北山エリア整備基本計画が府民・市民の意見を反映されておらず、まちづくり構想から削除すること。 2 交流機能を高めるといふ京都市の認識は、植物園の縮小、アリーナ建設などの開発を誘導するものであり、本来守るべき植物園や大学の機能、環境や景観とも相いれないことから、まちづくり構想から削除すること。 | | |
| 陳 情 者 | | | |
| 回 付 委 員 会 | まちづくり委員会 | | |